

ゴール指向要求分析方法

Group I3

08mi105 木下康介

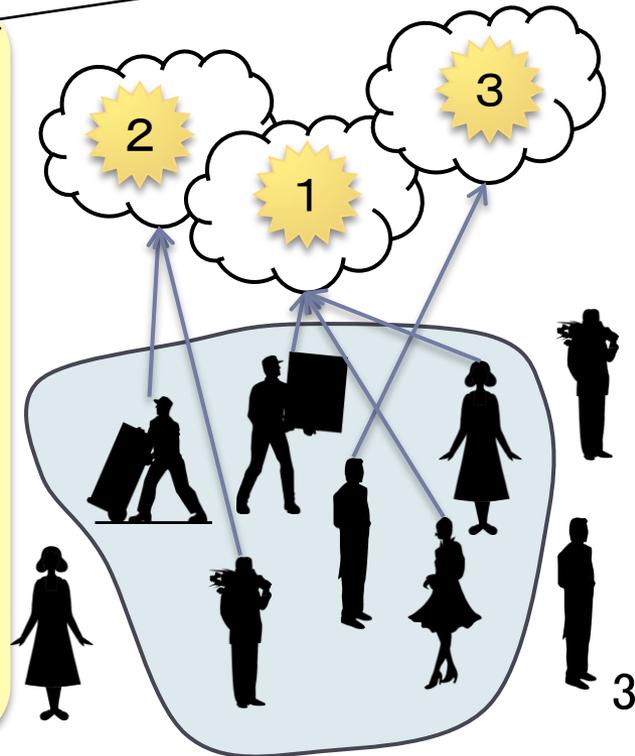
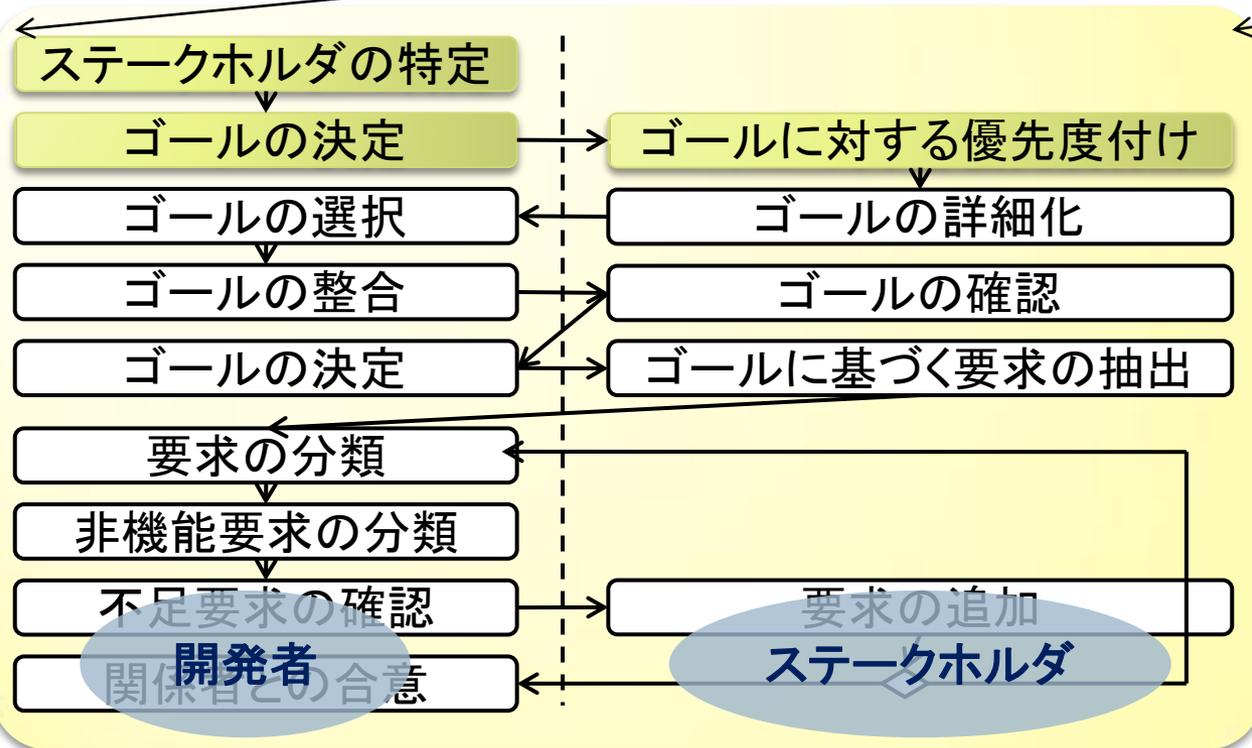
08mi274 山下和希

目次

- 研究の着眼点
- ステークホルダ
- ステークホルダ分析
- 提案プロセス
- 今後の方針
- 参考文献

研究の着眼点[1/2]

要求分析プロセス



研究の着眼点[2/2]

ステークホルダ間の関係を明確にする

ステークホルダの多様化によって、ステークホルダ間の関係が理解しづらい。

今までのステークホルダと
ゴールの関係性

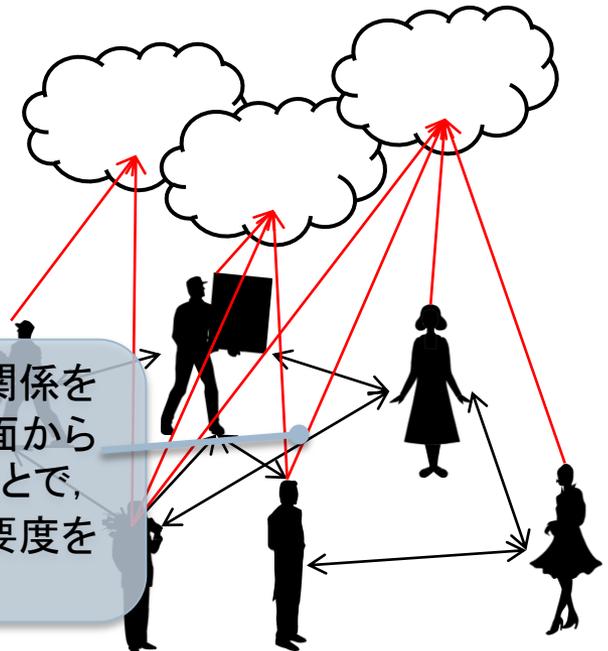


個々のステークホルダが所望するゴールと関係づけていた。ステークホルダの重要度が不明なため、ゴールの重要度の妥当性は？

期待できること

ステークホルダの重要度の
明確化

目指す関係性



ステークホルダ間の関係を
役割、活動など多方面から
分析し、関係づけることで、
ステークホルダの重要度を
明確化

ゴールの優先順位の決定

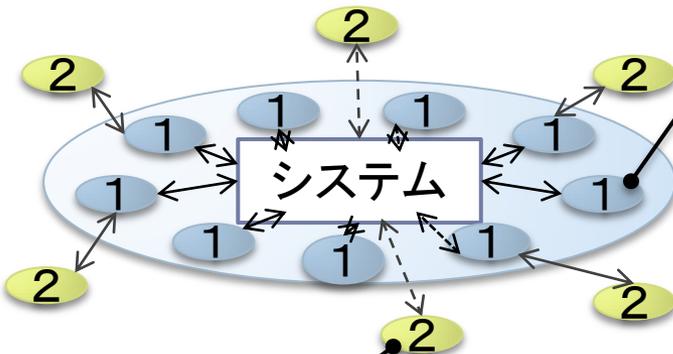
ステークホルダとゴールの
関係性の明確化

ステークホルダ

ステークホルダとは

システムに関与する個人、グループ、組織を表す。ステークホルダは要求の源泉となる。また、ステークホルダは利害関係者とも呼ばれる。

ステークホルダの分類



第一次ステークホルダ
対象システムに直接関与するステークホルダ。システムへの影響は大きいと考えられる。

第二次ステークホルダ
対象システムに間接的に関与するステークホルダ。システムへの影響は小さいと考えられる。

中核的ステークホルダ
戦略的ステークホルダのサブセットとして企業の存続に必要不可欠な存在。

戦略的ステークホルダ
企業の存続と企業活動において重要な存在。

環境的ステークホルダ
企業を取り巻く環境において、上記以外のステークホルダ。

ステークホルダ分析[1/2]

概要

ステークホルダを特定し、理解するために、ステークホルダと要求との利害関係の度合を分析する技術。

プロセス



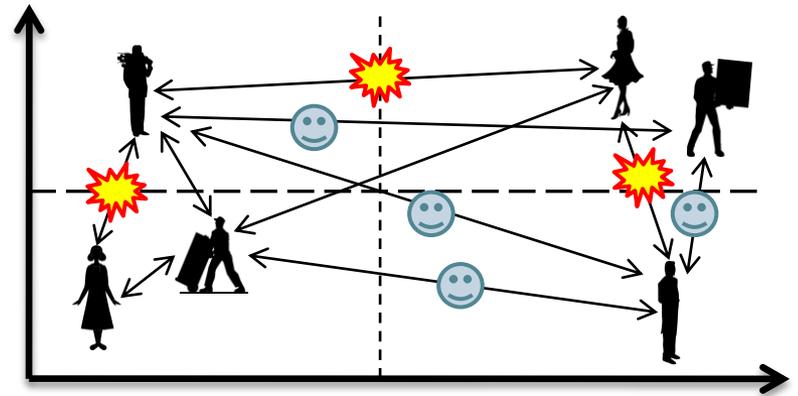
システムのステークホルダを特定

ステークホルダの要求と利害を抽出

ステークホルダ間の合意点と対立点を抽出

ステークホルダが影響を及ぼすリスクを抽出

ステークホルダの影響度の決定



システム開発を進める際、ステークホルダ分析によって、ステークホルダに関する事柄を知ることにより、開発工程が進んでもステークホルダの背後関係を、フィードバックできるようにしておくことが目的である。

しかし具体的な分析プロセスは定まっていない。

ステークホルダ分析[2/2]

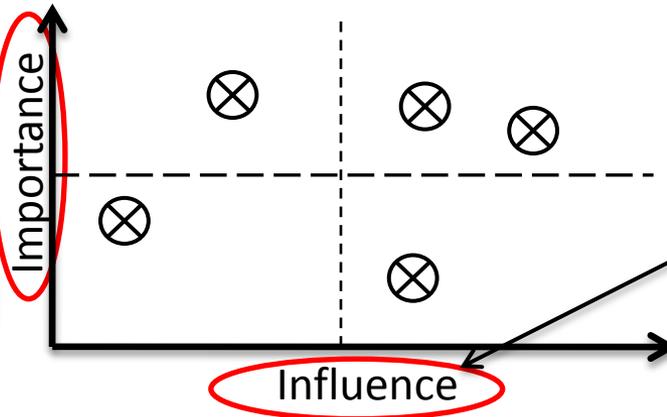
ステークホルダマトリクス

ステークホルダの持つ影響度と重要度をマトリクスで表現



重要度

開発が成功するためのステークホルダの必要性を表す。



影響度

意思決定に及ぼす相対的力。
この影響度が、システム開発の意思決定や実施に対して影響を与える。

表を用いたステークホルダの性質の特定

ステークホルダ	影響度 (1~10)	重要度 (1~10)	果たす役割, 責務	利害	
				要求(利益)	リスクの可能性

提案プロセス

提案するプロセス

ステークホルダの特定

ステークホルダ間の関係性を表す

ステークホルダに優先度を決定

優先度の高いステークホルダの持つ
ゴールを抽出

ゴールとゴール間の関係性を表す

ゴールの優先度を決定

優先度の付けられたゴールとステークホルダの
関係性からゴールの優先度の妥当性の確認

ステークホルダ分析

ステークホルダ間の関係性から、
優先度を決定する。

- ・システムに対する影響, 役割
- ・他のステークホルダへの期待, 影響

ゴール分析

抽出されたゴールをゴールと
ゴールの関係性から分析し
優先度を決定する。

ステークホルダの優先域を広げる



今後の方針

- 題目「ゴール指向要求分析方法の提案」
 - ステークホルダ分析とゴール分析を用いたゴールの優先度の決定
- 問題点
 - 関係性が曖昧な点
 - ステークホルダ と ステークホルダ間
 - ステークホルダ と ゴール間
 - ゴール と ゴール間
- 今後の課題
 - 各関係性の何に着目し分析するかを検討
- 課題に対するアプローチ
 - 身近な問題を用いて検証し、最適なアプローチ方法を模索.

参考文献

- ソフトウェア要求工学 講義資料
- 2006年度卒業論文
「ステークホルダ分析の反復による最適な要求獲得方法論に関する研究」
- 2008年度卒業論文
「視覚化を用いた要求獲得方法の提案」
- REBOK 要求工学知識体系